（４）②様式第４号－２（報告書）

NITS・教職大学院等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関：上越教育大学 連携機関：上越市教育委員会、糸魚川市教育委員会、妙高市教育委員会、柏崎市教育委員会、新潟県教育委員会
	テーマ：多様な子どもたちの学びを支える通級担当教師の自立活動の専門性向上を図ることを目的とし、教育・医療・福祉等の様々な立場の専門家からの知見を学ぶ研修
	研修等名：【NITS・上越教育大学教職大学院コラボ研修】 多様な子どもたちの学びを支える通級担当教師の実態把握力向上のための研修
	開催日時：令和３年６月２５日（金）～令和４年３月８日（火） 開催場所：上越教育大学（新潟県上越市山屋敷町１番地） 第１回～第９回研修　延べ人数と参加者の属性：（総数５０４人）教員４０１人（内訳:小学校 332 人,中学校 42 人,高等学校 5 人,特別支援学校 22 人）、大学院生５４人、大学教員３９人、市町村教育委員会指導主事９人、その他（医師）１人

内容

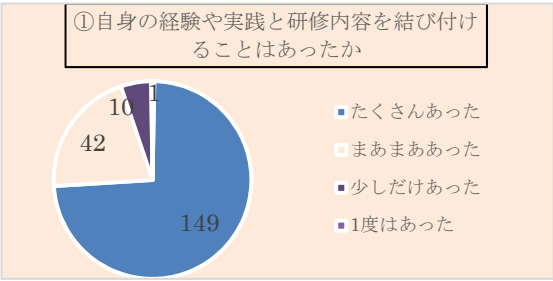
本研修では、主に通級指導教室担当者が教育的支援を要する児童生徒の実態把握について理解を深めることを目的としている。通級による指導を受けている児童生徒の実態をみると、発達障害に言語障害、難聴他、複数の障害をあわせ有している子どもが多い。障害の状態が多様化・複雑化している実情から、教育の視点による実態把握のみならず、医療・福祉の専門家の知見に学ぶ研修を計画、実施した。各研修会の内容については、以下に示す。尚、コロナ禍対応のため、当初秋に予定していた医師からの講話を最終 10 回目（3 月 8 日予定）に変更した。

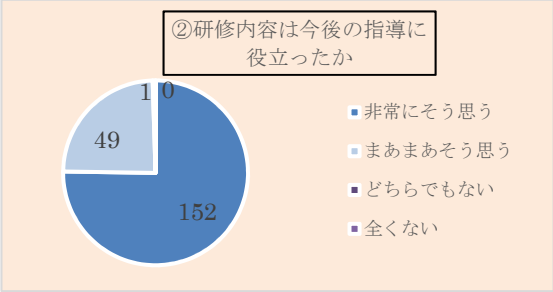
第１回　6 月 25 日（金）　自立活動の視点による実態把握
第２回　7 月 16 日（金）　子ども一人一人のニーズの理解と支援　～実態把握における検査の活用～
第３回　7 月 30 日（金）　子ども一人一人のニーズの理解と支援　～作業療法士の視点から～
第４回　8 月 19 日（木）　自立活動の個別の指導計画作成の意義・目的
第５回　9 月　3 日（金）　子ども一人一人のニーズの理解と支援
～通級による指導における ICT 活用の実際～
第６回　10 月　6 日（木）　子ども一人一人のニーズの理解と支援　～保健師の観点から～
第７回　11 月 18 日（木）　子ども一人一人のニーズの理解と支援～複数の障害を併せ有している場合～
第８回　12 月 23 日（木）　子ども一人一人のニーズの理解と支援　～不定愁訴のある子どもの場合～
第９回　2 月　4 日（金）　子ども一人一人のニーズの理解と支援　～ICT の工夫～
第 10 回　3 月　8 日（火）　子ども一人一人のニーズの理解と支援　～医師の観点から～（予定）

成果：参加者からの内容や実施方法に関する肯定的な評価が得られた。

第 1 回から第 9 回の研修会事後アンケート結果（アンケート回答数 202）

●選択肢によるアンケート結果
①「自身の経験や実践と研修寧陽を結び付けることはあったか（４、たくさんあった～１、1 度だけあったの 4 件法）」について、肯定的な評価が全体の 95%であった。
②「研修内容は今後の指導に役立ったか（４、非常にそう思う～１、全くないの４件法）」について、肯定的な評価が９９.5%であった。



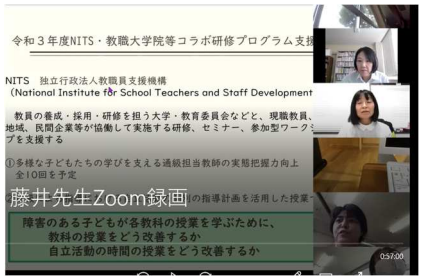
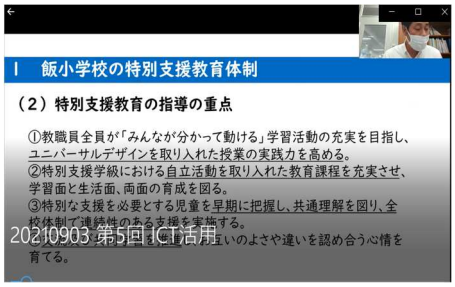


●自由記述による感想、意見、要望等
①自立活動６区分の視点で児童の実態把握を行うことで、見えてくるものがある…まさにその通りだと思いました。実態把握の力を伸ばすために重要だと思いました。
②WISC の結果の見方が分かりました。弱いところに目がいきがち

だが、本人の強みや得意を活かすという視点が大切だと改めて感じました。
③作業療法士の研修で、感覚統合の発達過程やうまく作用しない時の困り感の表れ方など、興味深く聴講させていただきました。それぞれの発達段階で身に付けられる感覚は何気ないことと感じていましたが、実は大切なことであると実感しました。たいへん勉強になりました。ありがとうございました。
④実態把握から手立てを立てるまでのカード整理法による実態把握など、分かりやすく勉強になりました。自立活動の指導計画の作成のポイントなどをもっと知りたかったです。
⑤校長先生が特別支援に理解がある事が素晴らしいと思いました。ICT を活用した具体的な指導方法を教えていただいたので早速試してみたいと思います。
⑥親子のコミュニケーション支援が行われていることを始めて知りました。子ども達だけではなく、親自身もどうしたらよいかわからない場合も多いのだと思いました。特別支援教育に関わるものとして、外部連携が必要な家庭が増えている感じがしています。保健師さんを通していろいろな支援の方法があることが分かりました。
⑦「子どものことを貪欲に知ろうとする」という言葉が一番印象に残りました。「先生が自分のことを分かろうとしてくれる」という気持ちが伝わることで関係が築け、子どもも「今度先生に会ったらこれ話そう」と通う意欲づけになるのかなと思いました。通級指導教室だけでなく、クラスの担任になっても大切にしていけるといいなと感じました。
⑧勉強のことだけでなくて自分の生き方や将来を考えるためにいろいろなことをやる教室という認識が広がっていくと「通級指導教室＝特別な場所、障害があるから通う場所」という考えが変わり通いやすくなるのではないかなと思いました。
⑨不定愁訴を訴える児童はすでに限界が来ていること、つらい思いをくみとりながらも注目しすぎないこと、心・体の生活の問題と簡単に片づけないことなど、不定愁訴を訴える児童とのかかわり方を見直すきっかけになりました。
⑩ICT を活用して子どもたちの学習の可能性を広げる力が教師に必要であると思いました。
⑪ICT を活用した具体的な実践例とその効果を客観的に評価することが、よりよい指導・支援につながっていくと思いました。
⑫オンライン研修は移動時間がない分、時間に余裕があって助かります。
⑬是非いつでも参加したり、見たりできることが可能なものをバックナンバーのようなかんじで置いていただけるとありがたいです。

アイディアや工夫したこと

①令和３年度は、全 10 回の研修を「教育的支援を要する児童生徒の実態把握について理解を深める」という一貫したテーマを設け、多様な立場の講師が専門性を活かした講話ができるようにした。参加者は、興味関心のある分野の講話を選択し聴くことができるようにしたが多くの参加者が複数回参加していた。
②新潟県の後援を得ることで、新潟県立教育センター等関係各所に案内を配布すし新潟県内広域の通級担当教員に案内することがき、オンライン研修としたことで広く県内全域からの参加があった。オンライン研修により、移動に時間を要さず、児童生徒の下校後 1 時間程度を研修時間としたことで、多忙化解消といった現場のニーズに合った参加しやすい状況をつくることができた。
③4 市（上越市、糸魚川市、妙高市、柏崎市）教育員会と連携し、教育委員会を通じて小中学校のみならず保育や福祉の関係機関に案内し、広く本研修が認知されることとなった。会を重ねる毎に通級指導教室担当者以外の特別支援教育コーディネーターや管理職、通常の学級担任等、参加者の幅が広がった。年間研修計画をチラシとして配布したことで、校内研修として本研修を位置付けた学校が複数あった。

＜写真・図など＞

オンラインによる講話、質疑応答、グループディスカッションの様子。